

この子らと

令和4年8月号

命輝く子ども



わくわく鹿児島中央認定こども園



園長 川口公男

暑い夏!子どもたちは?



夏は、プールや公園のほかにも博物館や動物園、水族館など親子で楽しめるイベントがたくさん企画されます。夏のお出かけで子どもたちの知的好奇心が刺激されたら、その体験を学びに結び付ける絶好のチャンスです。しかし、暑い夏は、「熱中症」にご注意ください。

幼児期の子どもは、体温調節機能があまり発達していないために、暑い環境で体温が上がりやすいなど**熱中症になりやすい**と言われていいます。

ベネッセの調査における熱中症対策です。

- 第1位 こまめに水分補給をする。
- 第2位 帽子や熱中症対策グッズを使う。
- 第3位 涼しい場所での休憩をはさむ。
- 第4位 外出は、昼間を避けて、朝や夕方にする。



手作りのお神輿・お遊戯で夏祭り



0歳ひよこ組



3歳ぱんだ組



2歳りす組



4歳きりん組



5歳ぞう組

暑い夏をみんなで力を合わせて元気で乗り越えようとして子どもたちの思いを込めた夏祭りでした。

“どの子どもも子どもは星”

みんなそれぞれが、それぞれの光をいただいてまばたきしている。ぼくの光をみてくださいと、まばたきしている。わたしの光もみてくださいと、まばたきしている。

光を見てやろう。光を見てもらえない子どもの星は、光を消す。まばたきをやめようとしている星はないか。光を消してしまおうとしている星はないか。

光を見てやろう。まばたきに
応じてやろう。やんちゃ者の光、
おとなしい子の光、気のはやい子の光、ゆっくりやさんの光、
天いっぱい子どもの星をかがやかせよう。

(東井義男 教育者・僧侶)



子どもたちは、一人一人がいつか必ず花開く「可能性」といういろいろな種子を無限にもっています。子どもに寄り添いながら一人一人の可能性を引き出していくのが保育者の責務です。

鹿児島の絵本作家椋鳩十先生は、『どんな人間でも必ず何かを持っている。生きとし生きるもので不思議な力を持たずにこの地球に生きているものは一つもない。人間の数ほど、才能も個性もある。人間が持っている才能は、多くの場合ずっと奥に入っている。運よく若いうちから出でくる場合もあるが、ほとんどはなかなか出てこない。何かに出会い何かに感動したときに才能が芽を出す。』と、言っておられます。

本園職員は、子どもたちが熱中して何かに気付いたり、何かを発見したり、何かに感動したりする教育・保育に日々、取り組んでおります。日々の感動等が子どもたちの胸に蓄えられていき、胸いっぱいになったとき、子どもたちの才能(可能性)が芽を出し、花開いていくと思っています。**「子どもたちの中に眠る可能性を信じた教育・保育が、今の時代にこそ求められています。」**

